

## はじめに

2011年度（平成23年度）の年報をお届けするあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

平成23年度は、福島第一原子力発電所の事故に関連し、食品検査用としてゲルマニウム半導体検出器を導入したことから、県民の皆さまの安全・安心に寄与するための新たな試験検査・調査研究の業務を担うことになりました。

市場流通食品中の放射性物質汚染調査の開始にあたり、仁戸名庁舎1階の研修室を機械重量に耐えうるべく改修した上で、当該機器を設置いたしました。また、食品化学研究室において、検体の前処理及び分析要領を検討して、検査法を確立する等ハード・ソフト両面の整備が完了した平成24年2月より検査を実施することができました。

検査結果については、県健康福祉部衛生指導課のホームページから毎週、定例で情報提供・発信しているところです。

また、国の「2012年麻疹排除」の達成のため、県の方針を受け、麻疹及び麻疹疑い例について、医療機関から保健所に搬入されたすべての検体を、ウイルス研究室においてPCR検査を実施しているところです。検査結果については、麻疹か、他疾患の疑いか、検査診断が治療や対策に役立つよう、速やかに還元しているところです。

なお、麻疹患者発生状況とともに感染症情報センターホームページに掲載して、排除が達成されるよう、県民の皆さまへの注意喚起を図っているところです。

さらに、この年は平成15年、平成19年度に続く、3回目の「千葉県試験研究機関の試験研究評価に関する指針」に基づく機関評価を受けております。結果、当研究所は、行政依頼検査等の試験検査業務が多くの割合を占めているところですが、行政（試験）検査と調査研究は車の両輪にあたるとして、調査研究により一層、取り組むよう指摘されたところです。今後は、調査研究のプロセスマネジメントに力を入れて取り組み、研究者のモチベーションの向上や、研究活動の効果的な展開の推進を図っていく所存です。

当研究所では、県民の安全・安心を図るため、感染症や食中毒、食品に由来する健康被害、無承認無許可医薬品や違法ドラッグ、飲料水などの健康被害など様々な健康危機に対応すべく各研究室、各課において、公衆衛生の科学的・技術的中核として日々の業務を地道に取り組み、対策や施策に貢献して成果を上げているところです。

科学技術はめざましい進歩を遂げています。

今後もその進歩に対応できるよう、職員一同努力する所存です。このたび、平成23年度の業務実績がまとまりました。当研究所の業績が行政の施策に活かされ、県民の健康の一助になれば幸いと存じます。

平成24年12月

千葉県衛生研究所  
江口 弘久